



『那須烏山市まちづくり研究会』 活動成果報告書

～栃木県内複数の大学等と市民・行政の協働による

まちづくり活動の9年間の軌跡～



『那須烏山市まちづくり研究会』活動成果報告書

～栃木県内複数の大学等と市民・行政の協働によるまちづくり活動の9年間の軌跡～



2016年2月

那須烏山市まちづくり研究会

発刊にあたって ～ 9年間の活動をふりかえる



那須烏山市まちづくり研究会 委員長
大久保 忠旦（宇都宮共和大学名誉教授）

「那須烏山市まちづくり研究会」は、2006年の発足以来ほぼ9年間にわたり、那須烏山市域のさまざまな課題をとりあげて研究活動をおこなってきた。研究会設立の趣旨と組織構成は本文の各項で述べられるが、とくにこの研究会の特色といえるものは、県内の大学から参加する教員有志がそれぞれのゼミに所属する学生たちをつれてきて、先ず那須烏山という現地もしくは風土を肌で感じさせる、その上でこの地域のさまざまな問題を卒業研究のテーマに採り上げてもらうという、いわばフィールドワークの方法で、自由な発想により研究することを基本理念とした点である。その学生たちの研究から若者らしい提案が生まれれば、那須烏山市もそれを採用し、実現に努力するという方針をとってきた。

毎年、年度はじめに教員・学生のチーム（研究班）ごとにそれぞれの研究計画案を研究会に提出、委員会で論議・調整したのちその計画を実施する。年度末の3月1日前後には研究成果の発表会を開催して、市民一般に公開するというかたちを続けてきた。3年ごとに第1期、第2期と研究課題の調整・見直しをしてきて、本年度（平成26年度）は第3期の3年目に当たる。調整役は研究会委員長の久保（宇都宮共和大）と副委員長の福島（足利工大）であるが、課題の大幅な変更が必要とされたことはなかった。

この研究会の発端は、産学官連携サテライトオフィス（宇都宮大学地域開発研究センター、当時）の大野邦雄客員教授（故人）が世話役であった「とちぎ観光資源活用研究会」（有志による勉強会）に、那須烏山市役所と那須烏山市商工会から、まちづくりのための支援要請が寄せられたことによる。研究会とはいえ、栃木県で最小規模の那須烏山市役所と商工会ゆえに、研究のための資金的な裏付けをすることは見込み得ない事情にあるため、それぞれの大学の教員の教育研究費で研究経費をまかない、交通費のような最小限必要な経費のみを市が支援するという方針を続けてきた。

“まちづくり”とは、その地域の市民が主体となって自分たちの“まち”をどのようにして住みやすいまちにするか、を考えることに尽きる。しかし従来のまちづくり支援には、国や自治体の大きな補助金を獲得して街並みを変える、構造物をつくるといった一過性の事業で終わるものが多かったのではないか、その疑問とは逆に、われわれの活動は地味ではあれ、“まちづくり”実践を学生教育のための素材と捉え、他方で学生たちの若々しいアイデアが市民の刺激となって地域の活性化をもたらすという、まちづくりの在り方の新しいモデルになり得ると考えている。事実、国内でもユニークな地域活動だとして、われわれの研究活動が下野新聞、日本経済新聞、読売新聞に報じられた。最後に、大谷市長をはじめ歴代の市役所商工観光課職員の皆様、とくに長年、休日出勤までして協力された木村孝、雫友二、長谷川節子、星貴浩、各務香織の各職員の皆様には深く感謝の意を表したい。

発 刊 を 祝 し て



那須烏山市長 大 谷 範 雄

この度、那須烏山市まちづくり研究会によって研究活動された成果がまとまり、ここに「活動成果報告書」として発刊される運びとなりましたことに、心からお祝いを申し上げます。

貴研究会は、平成18年7月に発足されて以来、本市の活性化を目的として知的資源並びに活力を活用した活動を重ね、毎年、着実な研究活動をされてきたことは、会員の皆様の真摯な姿勢とご努力によるものと敬意を申し上げます。

さて、那須烏山市は平成17年10月1日に新生「那須烏山市」として誕生し、10年目を迎えました。この間、「小さくてもキラリと光る那須烏山市」を合言葉に、本市の歴史や伝統文化、よき慣習等を守り育てながら、恵まれた自然環境を未来への預かり物という気持ちで、市民の皆様が将来にわたって住んでいたいと思うような魅力あるまちづくりを目指してまいりました。

その中でも地域の活性化策として、ユネスコ無形文化遺産を登録申請している「烏山の山あげ行事」を始めとする歴史と文化遺産、豊かな自然の恵みによる農林水産物、JR烏山線の蓄電池駆動電車「アキュム」の誕生、更に県立烏山高等学校や地域の中核病院の那須南病院の存在など誇れる地域資源を有効活用したまちづくりを推進しているところです。

私は、まちづくりとは、住んでいる人が、自らの地域を、自らの責任で、安全・安心に、しかも、子どもたちが将来に渡り住み続けたいと思うような、自立できる魅力的な地域社会をつくっていくことと考えております。

このような中、貴研究会によります県内大学生や地元烏山高校生、市民団体等による研究活動は、「鯉のぼりまつり」や「近代化遺産全国一斉公開」をはじめとした、若い力・市民の力が発揮された創意工夫ある魅力あふれるものばかりであります。

これらの活動は、まさに、本市の持つ魅力を引き出すとともに、市民との協働による世代の枠を超えたまちづくりに大きくご貢献いただいているものです。

最後になりますが、今日まで多くのご努力を頂きました貴研究会の皆様をはじめ、関係者の皆様に対し、心より敬意と感謝を申し上げますとともに、一層のご発展を祈念しお祝いのごことばといたします。

目 次

発刊にあたって

発刊を祝して

I はじめに

はじめに	1
『那須烏山市まちづくり研究会』の設立趣意	2
『那須烏山市まちづくり研究会』の組織と構成 (2014年4月1日現在)	3

II 委員会を構成する各大学・高校の研究課題および活動成果

(2014年4月1日現在の構成委員)

1 研究課題と活動趣意

(1) 足利工業大学 (福島二郎研究室, 工学部創生工学科建築・社会基盤学系)	7
(2) 国際医療福祉大学 (中田健吾ゼミ, 医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科)	9
(3) 宇都宮共和大学 (大久保忠旦 名誉教授)	11
(4) 宇都宮共和大学 (内藤英二ゼミ, シティライフ学部)	15
(5) 白鷗大学 (山田徳彦ゼミ, 経営学部経営学科)	17
(6) 栃木県立烏山高等学校 (まちづくり研究会)	19

2 主な活動成果の報告

(1) 足利工業大学 (福島二郎研究室, 工学部創生工学科建築・社会基盤学系)	23
(2) 国際医療福祉大学 (中田健吾ゼミ, 医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科)	83
(3) 宇都宮共和大学 (大久保忠旦 名誉教授)	123
(4) 宇都宮共和大学 (内藤英二ゼミ, シティライフ学部)	137
(5) 白鷗大学 (山田徳彦ゼミ, 経営学部経営学科)	153
(6) 栃木県立烏山高等学校 (まちづくり研究会)	163

III 『那須烏山市まちづくり研究会』の事業報告

1 研究会事業の報告

(1) 『棚田を泳ぐ&まちなか鯉のぼりまつり』および関連事業	175
(2) 『近代化遺産全国一斉公開 in なすからすやま』事業について	195
(3) 『活動・成果報告会』について	221
(4) そのほかの取り組み	255

2 オブザーバー団体等のプロフィールと活動紹介

(1) 那須烏山市まちづくり研究会ワークショップグループ	269
(2) 特定非営利活動法人 野うさぎくらぶ	271
(3) 特定非営利活動法人 那珂川流域悠遊会	273
(4) 石ヶ入りの自然を愛する会	275
(5) 特定非営利活動法人 てとてとて	277
(6) いきいきライフ積翠塾	279
(7) 街に賑わいを興す会	283

3 これまで研究会に参加していた大学等の紹介

(1) 大学コンソーシアムとちぎ産学官サテライトオフィス (大野邦雄コーディネータ)	287
(2) 作新学院大学 (前橋明朗ゼミ)	288
(3) 国際医療福祉大学 (安藤由美ゼミ)	288
(4) 小山工業高等専門学校 (酒入陽子ゼミ)	289

IV 活動記録・事務総括

1 年度別活動報告	291
2 主な活動記録 (写真でふりかえる活動記録)	303
3 委員会/事務局の構成員一覧 (年度別)	319
4 執筆者一覧	323
編集後記	324